夢童

マニパール大学との災害医療訓練協定

菅波　茂

今年2月13日、インド・カルナタカ州でマニパール大、岡山大、AMDAの共催で「災害医療に関するNGOと大学の国際協力シンポジウム」が開催された。このセミナーは、岡山大大学院の教育プログラムとして位置付けられており、日本からは、この教育プログラムの指導委員でもある私と、岡山大から土居弘幸教授、大学院生らが参加した。

この機会を捉え、AMDAはマニパール大などと災害医療訓練協定を結んだ。この協定により、WHO（世界保健機関）の協力による南西アジア6カ国のAMDA支部、同大などとの迅速な救援活動が可能となった。

協定前にもマニパール大は、オリッサ州の洪水（99年）▽グジャラート州の大地震（01年）▽タミル・ナードゥ州の津波（04年）――などでの被災者救援活動に、AMDA多国籍医師団の一員として医療チームを派遣している。

驚いたことに、同大では災害総合対策プログラムとして、コミュニケーション学部による災害情報を住民に提供するコミュニティー放送、建築学部による被災地家屋の復興を目指した建築学などの整備、地域医療学部による災害訓練センターの発足が、AMDAとの協定の目的だった。この夏には、AMDAと協力して災害救援訓練プログラムを行う予定である。レスキューチームを含めた救援医療チームの統合訓練がその内容である。

さらに、来年に発足する「AMDA―マニパール大学災害訓練センター」にはインド政府が資金援助をするとのこと。インド政府の同大に対する大きな期待がよくわかる。

マニパール大はガンジーを崇拝するT・M・A・パイ氏により53年、無人の地であるマニパール峡谷に創設された。現在では毎年1万5000人が入学する総合大学である。大学の知性の象徴である図書館はアジア最大といわれている。医学部の総合ランキング（04年）は全インドで第3位であり、特徴は医学生の3割が海外からの留学生ということだ。キャンパスがネパール、マレーシアそしてドバイにもある。その卒業生は世界50カ国に広がっている。マニパール大を中心とした人口20万人のマニパール市は、「知性の州」とされるカルナータカ州の象徴として今後も膨張していくと思われる。21世紀は国際ネットワークをもつマニパール大の時代でもある。

コミュニケーション学部の所長であるカマト教授は叡智あふれる81歳。インド通信の記者として、ガンジーをはじめ、毛沢東、周恩来、スカルノ、マーティン・ルーサー・キングら20世紀を代表する世界の指導者に直接インタビューをした豊富な経験を持っている。

AMDAが提唱する「相互扶助に基づく尊敬と信頼の国際ネットワークによる世界平和推進の理念」に共鳴して、「インド274地域すべてにAMDAクラブのネットワークを設立し、AMDAの活動を推進しよう」と提案してくれた。カマト教授の人的ネットワークとマニパール大のネットワークを合わせれば、不可能ではない気がした。ありがたい提案である。その場にいた土居弘幸教授が、08年に私がガンジー人道賞を受賞したことを報告すると、すぐさま立ち上がってお祝いの拍手をしてくれたことが印象的だった。

数年前からの米国発の金融恐慌に続く世界恐慌により、米ドルが世界基軸通貨の地位を失い、北米、中南米、ヨーロッパそしてアジアにそれぞれの地域通貨が出現すると予測されている。アジア通貨は日本、中国、インドそしてロシアが深く関与する可能性が高い。重要な役割を担うインドにおいて構築されるAMDAのネットワークが、災害医療のみならず日本とインドとの尊敬と信頼のネットワークとしてお役に立つことができれば、過去25年間多くの人たちに支援されてきたAMDAグループの代表として最高の喜びである。

（AMDAグループ代表）